



まなざし



7月号

誰もが安心して、笑顔で過ごせる学校へ

渡辺 隆正

3年前の7月3日、岐阜県内で、忘れることのできない悲しい出来事がありました。連日のようにニュースで取り上げられていたので、記憶に残っている方も多いと思いますが、岐阜市の中学3年生が、いじめが原因で自ら命を絶ちました。金銭の要求や暴力など、精神的にも、肉体的にも限界まで追い込まれていたそうです。いじめが原因で重大事態となる出来事は、その後も何度も起きており、旭川市の中学2年生へのひどいいじめは、記憶に新しいところです。

いじめは絶対に許されないことです。誰もがわかっています。それでも、一向になくなっていかないのはなぜでしょうか。

- ・ 優劣で相手との関係性を見ている
- ・ 自分と違う考え方や感じ方を認めない
- ・ 人の一面しか見ていない
- ・ 見た目やうわさで人を判断してしまう
- ・ 自分の感情にまかせて、相手の気持ちを考えず行動してしまう
- ・ 間違っているとわかっていても周りに流されてしまう

これらは要因の一部でしかありませんが、そうした様々な人が陥りやすい弱さによって、いじめや差別は起きています。自分たちにはそんな弱さがあるということを、まずは自覚し、その克服に向けて自分の見方・考え方、そして行動を変えていくことが大切です。現代は、多様性を認める社会です。「みんなちがって、みんないい」という言葉がありますが、互いの違いを認めながら、相手と折り合いをつけてよりよい社会の実現に向けて、力を合わせていくことが求められます。

八百津中学校では、「いじめ防止基本方針（P T A総会資料参照）」に則り、誰もが安心して生活・学習できる学校を目指して、様々な取組をしています。年6回実施の「安心安全アンケート」、年3回実施の「教育相談週間」、生徒会を中心とした「ひびきあい活動」など、年間を通していじめの未然防止や早期発見・早期対応に努めています。「いじめはどこにでも起こりうる」を念頭に置き、職員は高く、広くアンテナを張って、子どもたちに寄り添った指導を大切にしています。それでも、気づかないところで、静かに進行していることも現実にはあります。ですから、周りの子どもや保護者、地域の方など、異変を察知された方の情報はとても大切になります。先日行われた「安心安全アンケート」でも、子どもたちから多くの情報が寄せられ、担任や学年の先生がすぐに解決に動いたり、学年集会等で全体に投げかけがあって、みんなで少し立ち止まって考えたりすることもできました。困っている仲間をそのままにせず、心配なことを正直に伝えてくれたおかげで、いやな思いをする人が救われました。それが当たり前ができる八中生を誇りに思います。

また、生徒会を中心とした「ひびきあい活動」に関わって、今年度は3年ぶりに児童・生徒会サミットが復活し、先日、WEBで各校の今年度の取組計画が交流されました。本校からは山岡生徒会長さん、後藤執行委員さんが参加し、ひびきあい学活から安心安全宣言作り、ひびきあい集会、思いやりメッセージと続く流れを説明しました。7月1日には「ひびきあい集会」を行い、各学級が今の学級の現状をどのように見つめ、安心安全宣言を実現するために、具体的にどう行動するのか発表しました。一人一人がそれらを意識して、仲間を思いやって生活すれば、きっとみんなが安心して笑顔で過ごせる学級、学年、学校になると、期待が大きく膨らみました。

